

主題：イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 5

主の福音の奉仕の内容と道を伴う彼の務めを生きることによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

聖書：マルコ 1:14—3:16

- I. 主の生活は彼の働きであり、彼の行動であり、彼の務めでした。彼の働きは彼の生活であり、彼の行動は彼の存在でした。彼の生活と彼の働きと彼の行動と彼の務めとに相違はありませんでした。主イエスは彼の務めを生きました——参照、ルカ 22:26-27. ヨハネ 10:10 後半. I コリント 15:45 後半. I ヨハネ 5:16 前半. II コリント 3:6. ペリピ 1:25.
- II. わたしたちは、奴隷・救い主のすばらしい卓越した福音の奉仕の内容の実際を見て、その中に入る必要があります——マルコ 1:14-45：
- A. 彼が福音の奉仕の中で行なった第一の事は、福音を宣べ伝えることです——14-20 節：
1. キリストご自身、そして彼が経過した手順のすべてと、彼が完成した贖いの働きのすべてが、福音の内容です——1-8 節. マラキ 3:1-3. 参照 4:1-2。
 2. 奴隷・救い主の宣べ伝えは、神の喜ばしい訪れを、縛られているみじめな民に告げ知らせることでした。彼の教えは（マルコ 1:21-22）、暗やみの中にある無知な者を、真理の神聖な光で照らすことでした。
 3. 彼の宣べ伝えは教えを含み、彼の教えは宣べ伝えを含みました——マタイ 4:23. マルコ 1:38-39. 3:14. 6:12. 14:9. 16:15, 20。
- B. 彼が福音の奉仕の中で行なった第二の事は、真理を教えることでした——1:21-22：
1. 真理とは、神聖な光が聖書の事実を照らして、それらの事実の天的ビジョンを、わたしたちの存在の中に映像化することです——ヨハネ 8:12, 32, 36. 1:4. 14:6 前半。
 2. 主が真理を教えるとは（マルコ 2:13. 4:1. 6:2, 6, 30, 34. 10:1. 11:17. 12:35. 14:49）、人々をサタン的な暗やみから、神聖な光の中にもたらすことです（使徒 26:18）。奴隷・救い主は世の光であり（ヨハネ 8:12. 9:5）、大いなる光としてガリラヤ、暗やみの地に来て、死の影の中に座っている人々を照らしました（マタイ 4:12-16）。
 3. 彼の教えは光の言葉を解き放って、死の暗やみの中にいた人々を照らし、彼らは命の光を受けました——ヨハネ 1:4。
- C. 彼が福音の奉仕の中で行なった第三の事は、とりつかれている人々から悪鬼どもを追い出すことです——マルコ 1:23-28：
1. 悪鬼どもが人々にとりつくことは、神が彼の目的のために創造した人を、サタンが占有することを表徴します。
 2. 主イエスは来て、サタンのわざを破壊しました（I ヨハネ 3:8）。彼が悪鬼どもを追い出すのは（マルコ 1:34, 39. 3:15. 6:7, 13. 16:17）、人々がサタンの束縛から（ルカ 13:16）、サタンの暗やみの権威から（使徒 26:18. コロサイ 1:13）、神の王国の中へと解放されるためです（マルコ 1:15）。
- D. 彼が福音の奉仕の中で行なった第四の事は、病人をいやすことです——マルコ 1:29-39：

1. 病は罪の結果であり、神の御前で人の不正常的な状態のしるしです。主は人々の病んだ状態をいやし、彼らを回復して正常にし、彼に仕えることができるようにします——34 節。 3:10。 6:5, 13, 56。 詩 103:1-22。
 2. わたしたちは医者のように福音を宣べ伝え、真理を教えることを学んで、人々に天の処方せんと神聖な薬を与え、彼らをいやさなければなりません——マタイ 9:11-13。 ルカ 10:33-37。 参照、箴 4:20-23。 出 30:25。
- E. 彼が福音の奉仕の中で行なった第五の事は、らい病の人を清めることです——マルコ 1:40-45 :
1. らい病は、人の内側から出て来る反逆の罪、重大な罪を表徴します。例えば、故意の罪、出しゃばりの罪、決意して神に反対することです——I ヨハネ 3:4。 参照、イザヤ 14:12-15。 レビ 13:2。 14:9。
 2. ミリアム（民 12:1-10）、ゲハジ（列王下 5:20-27）、ウジヤ（歴代下 26:16-21）の事例で見られるように、らい病は神の権威、神の代理権威、神の規定、神のエコノミーに対する反逆から来ます。
 3. らい病の人が清められるためには、「……彼はすべての毛をそり落とさなければならぬ。頭も、髭も、まゆ毛も、すべての毛をそらなければならない」——レビ 14:9 前半 :
 - a. 頭髮は自己を尊ぶことでの人の栄光を表徴し、髭は人の自己の尊貴を表徴し、まゆ毛は人の天然の誕生から出て来る卓越性、長所、美德を表徴し、体のすべての毛は人の天然の力と能力を表徴します。
 - b. ですから、体のすべての毛をそり落とすことは、十字架の「カミソリ」を通して、自己と人の栄光、人の尊貴、人の美しさ、人の天然の力を、取り除くことと等しいのです。わたしたちは何も持たず、無である時、清いのです——ガラテヤ 6:3。

III. マルコ第 2 章 1 節から第 3 章 6 節に記録されている五つの事例は、奴隷・救い主が、彼の福音の奉仕を完成するのに取った五つのあわれみ深い、生ける方法を啓示しています :

- A. 奴隷・救い主は神聖な権威を持つ神であって、病を患っている人の罪を赦し、サタンのしいたげから解放して（使徒 10:38）、神に回復しました。聖書学者たちはこれを、彼らの宗教の神学に違犯すると考えました（マルコ 2:1-12） :
1. 主イエスは神・救い主であり、奴隷・救い主でもあって、神性と人性を所有していました。彼は罪人を赦す能力だけでなく、彼らの罪を赦す権威も持っていました——ルカ 5:21, 24。
 2. 罪の赦しを受けるなら、わたしたちは神を畏れ（詩 130:4）、神を愛するようになります（ルカ 7:36-50）。主は彼の救いの中で、わたしたちの罪を赦すだけでなく、わたしたちが立ち上がって歩き、「平安の中を行き」（50 節）、「行き……今後はもう罪を犯」さないようにします（ヨハネ 8:11）。
- B. 彼は病んだみじめな人々の医者として、取税人と罪人と共に食事をしました。それは、彼らが神のあわれみを味わい、神を享受することに回復されるためです。これは、自分を義とし、あわれみのないパリサイ人の聖書学者たちによって、罪定めされました——マルコ 2:13-17。 ルカ 1:78-79 :
1. 自分を義とするパリサイ人は、自分は強いと考えました。ですから、彼らは自分を義

とすることによって盲目にされて、自分が病んでおり、医者としてのキリストを必要とすることを知りませんでした——マタイ 9:12-13。

2. 医者としての主イエスが彼の「病人」を顧みるのは、彼らを彼と共に食事させ、神の享受の中にもたらしすることによってです。救いの喜び、神の享受は宴席です——I コリント 5:7-8. 詩 51:2, 12。

C. 彼は付き添いの友と共にいる花婿として、彼に従う者たちに、断食するのではなく、喜び樂しませました——マルコ 2:18-22 :

1. 断食の真の意義は、主イエス以外のすべてのものを食べることをやめ、彼以外の何も味わわないことです——マタイ 6:16-18. イザヤ 58:3. ヨハネ 6:57. 参照、民 11:4-7。
2. 花婿としてのキリストが、わたしたちを得て彼の勝利の花嫁とし、彼の複製とするのは、わたしたちの医者となって、彼の全体的な救いによって、わたしたちの三部分から成る存在を有機的にいやすことによります——ローマ 5:10. 参照、マラキ 4:2 :
 - a. 彼はわたしたちの新しい布であって、わたしたちの新しい衣服となり、わたしたちに着せ、神が与えた義としてのご自身をもって、わたしたちを美しくします。これは、彼の流した尊い血がわたしたちに適用され、わたしたちを法理的に贖うことによります——ルカ 15:22. Iコリント 1:30. マタイ 9:16。
 - b. 彼はわたしたちの新しいぶどう酒であって、わたしたちの新しい命となり、わたしたちを満たし、神が与えた分としてのご自身をもって、わたしたちを元気づけます。これは、彼の無上の価値ある命をわたしたちの中に分与して、わたしたちを有機的に救うことによります——士 9:13. マタイ 9:17. コロサイ 1:12。
3. わたしたちはキリストの花嫁であるだけでなく、「付き添いの友」(マルコ 2:19)でもあり、花婿であるキリストの団体の「花婿付添人」となります。彼をわたしたちの新しい衣服、また新しいぶどう酒として享受することによって、わたしたちは彼の団体の「花婿付添人」、すなわち、新しい人としてのキリストのからだとなります。

D. 主は彼に従う者たちに、安息日に麦畑の麦の穂を摘むことを許しました。なぜなら、主は宗教の規定よりも、彼に従う者たちの飢えを顧みられたからです。これは神の新約エコノミーにおいて、宗教の規定を守る事柄ではなく、真の安息日の安息としてのキリストの中で、キリストを通して、満足を享受する事柄です——23-28 節 :

1. 安息日を守る真の意義は、わたしたちが自分の行ないを停止し、自分の働きをやめて、主がわたしたちのためになしたことを享受し、臨在(供え)のパンとしての主を食べ、養いと供給を得ることです——出 25:30。
2. 人が安息日のために創造されたのではなく、安息日が人のために定められて、人はそれを神と共に享受するのです。神はまず働き、そして安息しました。人はまず安息し、そして働きます——創 2:2-3。
3. 安息日を守ることはしるしであって、神の民が神のために働くことが、彼ら自身の力によってではなく、彼を享受し、彼で満たされ、彼と一になることによってであるということです。それはまた永遠の契約であって、わたしたちが神と一であることが、まず神を享受し、それから神と共に働くことによってであることを、神に保証します——出 31:12-17。

E. 安息日に主は、宗教的儀式ではなく、苦しんでいる者の解放を顧慮しました。宗教的で

あることは、キリストの臨在なしに神のために何かを行なうことです——マルコ 3:1-6:

1. 宗教的規定は、主にとって重大事ではありませんが、貧しく死んでさえいる彼の肢体を癒すことは、彼にとってすべてでした。
2. これは部分的に自由であっても、完全に自由ではない人の事例です。わたしたちも片手のなえた人のように、完全に解放される必要があります。
3. 奴隷・救い主はわたしたちを解放する方であり、わたしたちを宗教の儀式から、また罪の奴隷状態から自由にします。わたしたちはある程度まで自由にされているかもしれませんが、わたしたちの生活のある部分では、なおも奴隷・救い主によって解放される必要があります——ヨハネ 8:32, 36. ローマ 6:12-23. 8:2。

IV. 奴隷・救い主の福音の奉仕の以上五つの道は、五つの言葉で要約することができますそれは赦し（マルコ 2:1-12）、享受（13-17 節）、喜び（18-22 節）、満足（23-28 節）、自由です（3:1-6）。わたしたちは彼に触れることによって（5:24-34）、このすべての面で、彼をわたしたちの完全な救いとして経験することができます：

- A. わたしたちが直接、主と接触し、直接、彼に触れるとき、彼はわたしたちの中に神の力として注入されて、わたしたちのいやしとなります。人々を助ける真の道は、彼らを主との直接の接触にもたらすことです。
- B. わたしたちはみな主と接触し、彼と交わり、常に霊の中で彼に触れなければなりません。それは彼がわたしたちの毎日の救い、また常時の供給となって、彼のからだを建造することができるためです——ヨハネ 4:24。